

平成30年度宮城県地域医療構想調整会議 (石巻・登米・気仙沼区域)

日 時 平成31年2月6日(水)
午後3時30分から午後5時まで
場 所 宮城県登米合同庁舎 5階 501会議室

次 第

1 開 会 2 挨 拶 3 議 事

- (1) 意見交換会及び地区部会における主な意見について・・・資料1
- (2) 構想区域の現状について・・・資料2
- (3) 定量的な基準について・・・資料3
- (4) その他の共有事項について・・・資料4
- (5) 医療機関ごとの具体的な対応方針について・・・資料5

4 閉 会

< 配 付 資 料 >

-
- (資料1) 平成30年度地域医療構想調整会議第1回意見交換会における主な意見等, 平成30年度地域医療構想調整会議仙台区域地区部会及び第2回意見交換会における主な意見等
 - (資料2) 現状の整理(データとアンケート等から見る構想区域像)
 - (資料3) 定量的な基準について
 - (資料4) その他の共有事項
 - (資料5-1) 新公立病院改革プランの概要, 公的医療機関等2025プランの概要
 - (資料5-2) 医療機関ごとの具体的な対応方針(公立・公的医療機関以外)

平成30年度宮城県地域医療構想調整会議
(石巻・登米・気仙沼区域) 出席者名簿

【委員】

(順不同・敬称略)

分野	No	氏名	所属	備考
医師会	1	荒井 啓史	宮城県医師会 理事	
	2	神部 廣一	桃生郡医師会 会長	欠席
	3	千葉 淳	石巻市医師会 会長	副座長
	4	大坂 國通	登米市医師会 会長	
	5	森田 潔	気仙沼市医師会 会長	座長
歯科医師会	6	佐藤 隆保	石巻歯科医師会 会長	
	7	大坂 博伸	登米市歯科医師会 会長	代理:高橋 利光 副会長
	8	菅野 健	気仙沼歯科医師会 会長	
薬剤師会	9	澁谷 和彦	石巻薬剤師会 会長	
	10	鳥居 栄人	登米市薬剤師会 会長	代理:小野寺 裕昭 副会長
	11	武田 雄高	気仙沼薬剤師会 会長	
看護協会	12	三浦 葉子	宮城県看護協会 気仙沼支部理事	
病院	13	石橋 悟	石巻赤十字病院 院長	
	14	安海 清	気仙沼市立病院 院長	代理:横田 憲一 副院長
	15	大内 憲明	登米市病院事業管理者	代理:松本 宏 登米市市民病院長
	16	椎葉 健一	石巻市立病院 院長	
	17	初貝 和明	南三陸病院 院長	
	18	齋藤 明久	齋藤病院 院長	
	19	勝又 貴夫	石巻健育会病院 院長	
	20	庄司 好己	真壁病院 院長	
	21	猪苗代 盛貞	猪苗代病院 院長	欠席
保険者	22	後藤 善征	全国健康保険協会宮城支部 企画総務部長	
	23	門間 博幸	宮城県国民健康保険団体連合会 事務局長	代理:菅谷 正孝 事業推進課長
市町村	24	畠山 早苗	石巻市健康部長	
	25	佐藤 浩	登米市市民生活部長	代理:佐々木 秀美 健康推進課長
	26	菅原 宣昌	気仙沼市保健福祉部長	
保健所	27	鈴木 陽	宮城県石巻保健所長兼登米保健所長	
	28	鹿野 和男	宮城県気仙沼保健所長	

【地域医療構想アドバイザー】

氏名	所属	備考
藤 森 研 司	東北大学 大学院 医学系研究科・医学部 教授	

【事務局】

氏名	所属
遠 藤 圭	宮城県 保健福祉部 医療政策課 医療政策専門監
木 村 文 康	同 同 課長補佐(企画推進班長)

1. 開 会

○司会

ただいまから平成 30 年度宮城県地域医療構想調整会議（石巻・登米・気仙沼区域）を開催する。

2. 挨拶

○司会

開会に当たり、県保健福祉部医療政策課医療政策専門監の遠藤からご挨拶申し上げます。

○遠藤専門監

【挨拶】

3. 議 事

○司会

本日の調整会議の座長は、気仙沼市医師会の森田会長にお願いしている。

○森田座長

では、次第に従い議事を進めさせていただく。（1）意見交換会及び地区部会における主な意見についてから、（4）その他の共有事項についてまで、一括して事務局から説明、報告をお願いする。

○事務局

【説明】

○後藤委員

質問と要望が2点ある。1点目は、資料3の定量的な基準について、佐賀方式の試算であるが、急性期は過剰で回復期、高度急性期は不足していることから、急性期から回復期及び高度急性期の病床転換が必要と思われる。資料1の第2回目の意見交換会を見ても、回復期、慢性期機能の病床を有する病院から不足感の声もあるという意見も出されているので、この転換は必要ではないか。

さらに、高度急性期の不足で、2025年の必要病床数192に対して40ということで、かなり乖離があり地域住民の不安もあろうかと思う。県として、高度急性期を増やす方策があるのか、病床機能転換をどのようにして調整していくのか。

もう1点、要望である。協会けんぽの管理者の事業所の健康保険事務担当者に対して、地域医療に関するアンケートを30年4月に行ったところ、在宅医療を求める意見、それから医療の充実を求める意見などさまざまな意見があり、関心の高さが感じられた。

一方、800近い回答数があったが、その中で地域医療構想の認知度は5%程度ということで、県民に余り浸透していないのではないかと。国の第15回ワーキンググループにおいて、地域住民への情報提供が示されており、資料1の第2回目の意見交換会でも病期に応じて転院していくという考え方について、地域住民に理解してもらう必要があり、行政に広報をお

願いたいという意見も出されている。現状の整理におけるアンケートにおいても、地域住民への啓蒙も必要という意見もあった。県において、ホームページの掲載だけでなく、わかりやすい丁寧な広報をお願いしたい。

○事務局

1点目、病床機能の件だが、急性期が数的に多いという状況は、依然としてデータからは見られるところ。一方、本日これから説明する資料の5-2は、民間の病院や有床診療所の先生方のオフィス等の考え方ということで回答してもらった内容になるが、これまで私どもで把握していた内容以外にも、回復期への転換など、様々な動きが出てくるように見える。

構想の推進に当たっては、県では具体的に決め打ちで進めていくというよりは、情報の共有、提供を図りながら進めていくというこれまでのスタンスを取りたいので、引き続き情報共有、必要な議論の場の確保などに努めたい。

あと、数字上、資料3からは高度急性期が不足するのではと見られるが、関連する一体的な機能の部分とも思っているため、急性期を担う各病院とも調整しながら、必要な機能の確保に取り組んでいきたい。

次に、医療構想が十分に共有、浸透していないのではという話だが、確かに指摘のとおり、ホームページでの情報発信のみでは限界もある。地区対などの取り組みが、各地域で様々な形で進められているので、そうした場の活用も含めながら、普及啓発を行うとともに、地域ごとの課題の共有の仕方も充実させたい。

○森田座長

先ほどの周知不足等については、各地区の病院や医師会の中でも、こういう議論がされていることに対して、あまり関心がない職員もいるのも事実。本日出席の皆様は、ずっと関心を持っているが、なかなか現場まで伝わっていないのも現状ではないか。

続いて、(5) 医療機関ごとの具体的な対応方針について、事務局から説明をお願いする。

○事務局

【説明】

○森田座長

意見がないようなので、項目5はこれで終了とする。他に何か意見、質問等はあるか。

○藤森地域医療構想アドバイザー

人口の減少、特にその働き手の確保ということで、非常に厳しいことになっていくのだろうが、本日伺っていて一番不足しているのは、連携のための情報共有かと思う。限られた医療資源を最大限に生かすためにも、連携の推進をお願いしたい。

○森田座長

少ない医療資源とスタッフなので、包括ケアも含めてであるが、連携、顔の見える関係の共有が非常に大事になってくる。

司会進行を事務局に返す。

4. 閉 会

○司会

以上をもって、平成 30 年度宮城県地域医療構想調整会議（石巻・登米・気仙沼区域）を終了する。